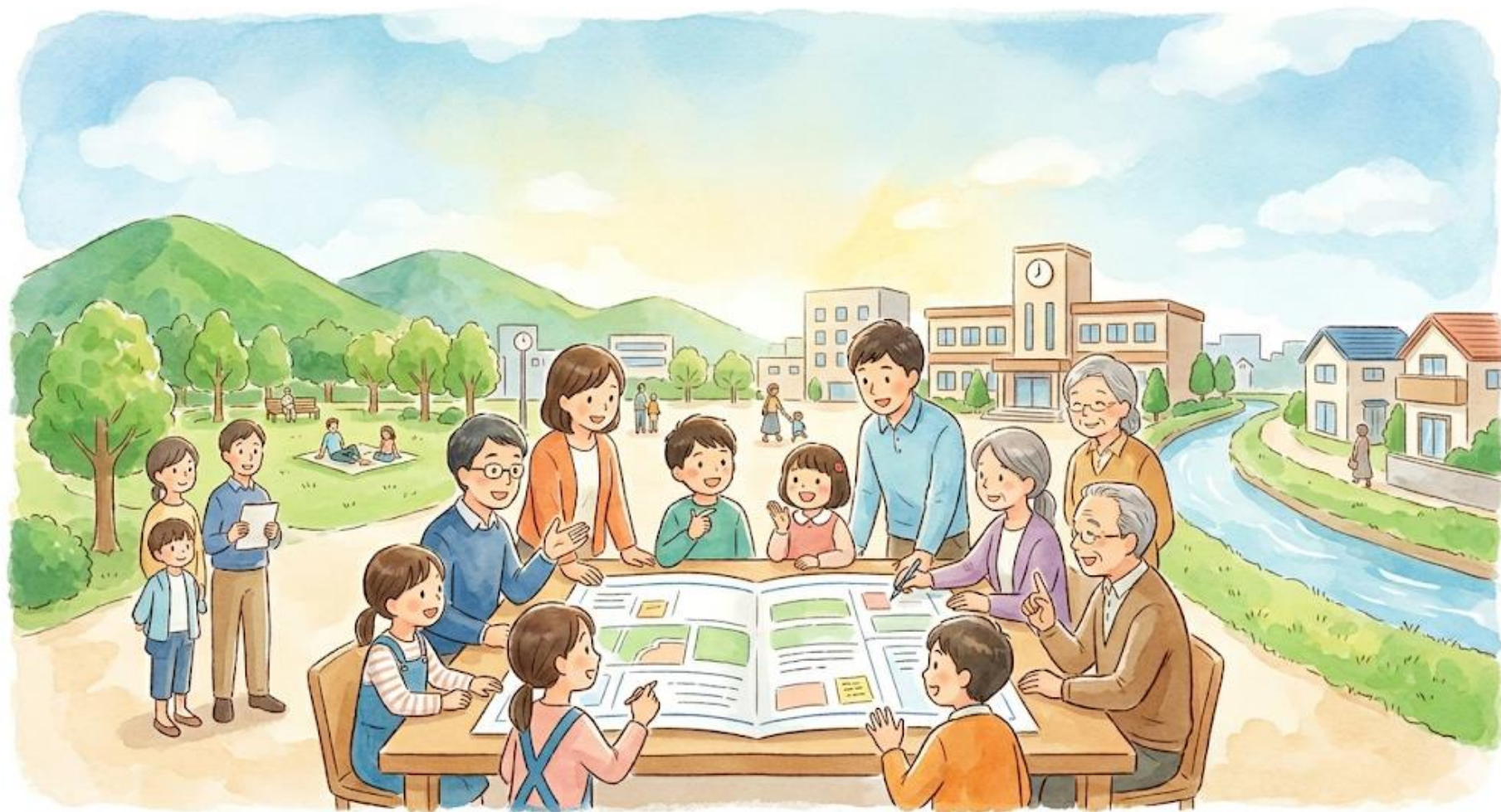


第2次西予市総合計画ふりかえり 「基本構想編」



令和8年5月 西予市

【この資料の趣旨】

この資料は、「第2次西予市総合計画」のふりかえりにおける補助資料です。総合計画の「基本構想（将来像：目指した姿）」と、「2026年現在の姿」を物語調で比較し、生成AIを用いてイラスト化することで、「姿」をイメージしやすいよう視覚的にまとめました。

【この資料の見方】

イラストと文章の番号が対応しています。

第2次総合計画(H28～)で描いた、2027年の理想像を表します。

結婚・出産・子育て

目指した姿	現在の姿
 ①	 ①'
 ②	 ②'
 ③	 ③'
 ④	 ④'

このまちでは、結婚を望めば、誰もがその機会がある。もはや、出会いがないなどは誰も言っていない。①地域では出会う機会が提供され、カップルが多く誕生している。また、②多くの子どもを望む夫婦が増えている。男女共同参画意識の高まりも相まって、行政や親世代だけでなく③地域なども子育てを支援し、④地域を愛し、愛情豊かで、頑張る子どもたちがすくすくと育っている。

このまちでは、①'未婚率の上昇や晩婚化という構造的な課題が影を落としている。出会いの機会の提供は地域に定着しつつあるが②'出生率の向上には至っていない。一方で「子育てするなら西予」の理念のもと、③'親世代の不安を地域全体で支えようとする機運が芽生え④'子どもの愛着を育むための着実な歩みが続けられている。

見直し

今後の方向性を示しています。

目指した姿と比較し、現状がどのようなかを表します。

青字：プラス(+)
赤字：マイナス(-)

～総評～
婚姻件数や出生数は依然として厳しい状況にありま~~が~~、基本構想で掲げた「地域と企業が連携して支える体制」の構築は着実に進んで
一方で、一定の進展は見られるものの、今後も継続した取組が必要です。【見直し】親の不安に寄り添い、地域と企業で手を
合~~って~~る。

比較しての総評を記載しています。

目指した姿



このまちでは、結婚を望めば、誰もがその機会がある。もはや、出会いがないなどは誰も言っていない。①地域では出会う機会が提供され、カップルが多く誕生している。

また、②多くの子どもを望む夫婦が増えている。男女共同参画意識の高まりも相まって、行政や親世代だけでなく、③地域なども子育てを支援し、④地域を愛し、愛情豊かで、頑張る子どもたちがすくすくと育っている。

現在の姿

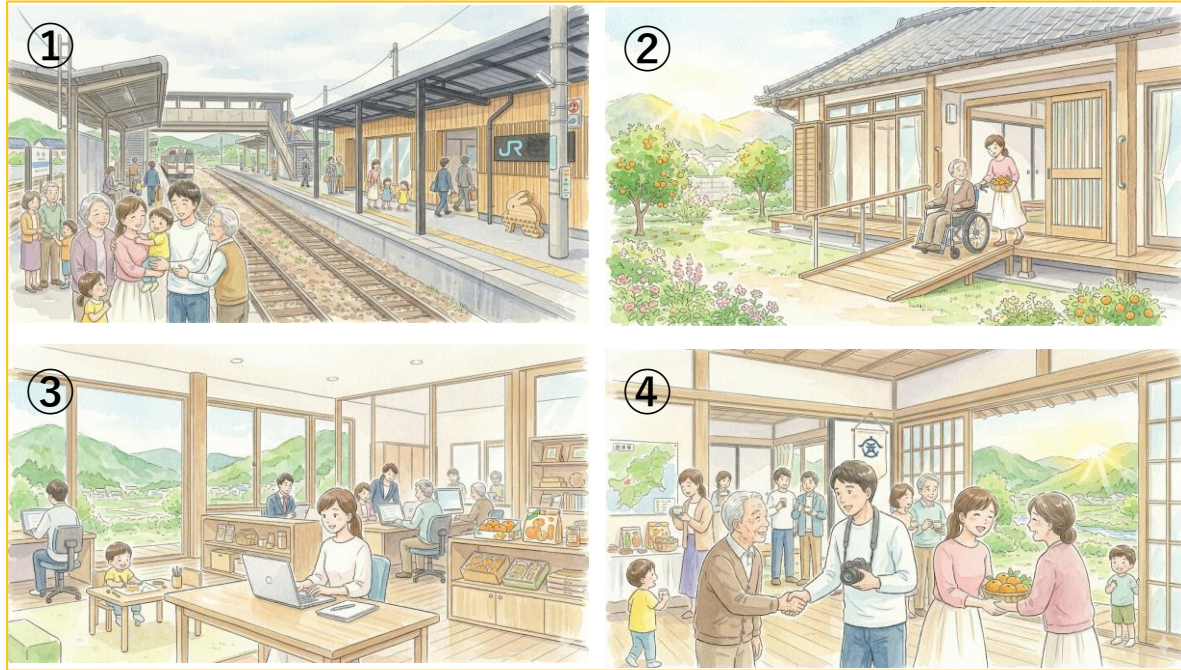


このまちでは、①'未婚率の上昇や晩婚化という構造的な課題が影を落としている。出会いの機会の提供は地域に定着しつつあるが、②'出生率の向上には至っていない。一方で「子育てするなら西予」の理念のもと、③'親世代の不安を地域全体で支えようとする機運が芽生え、④'子どもの愛着を育むための着実な歩みが続けられている。

～総評～

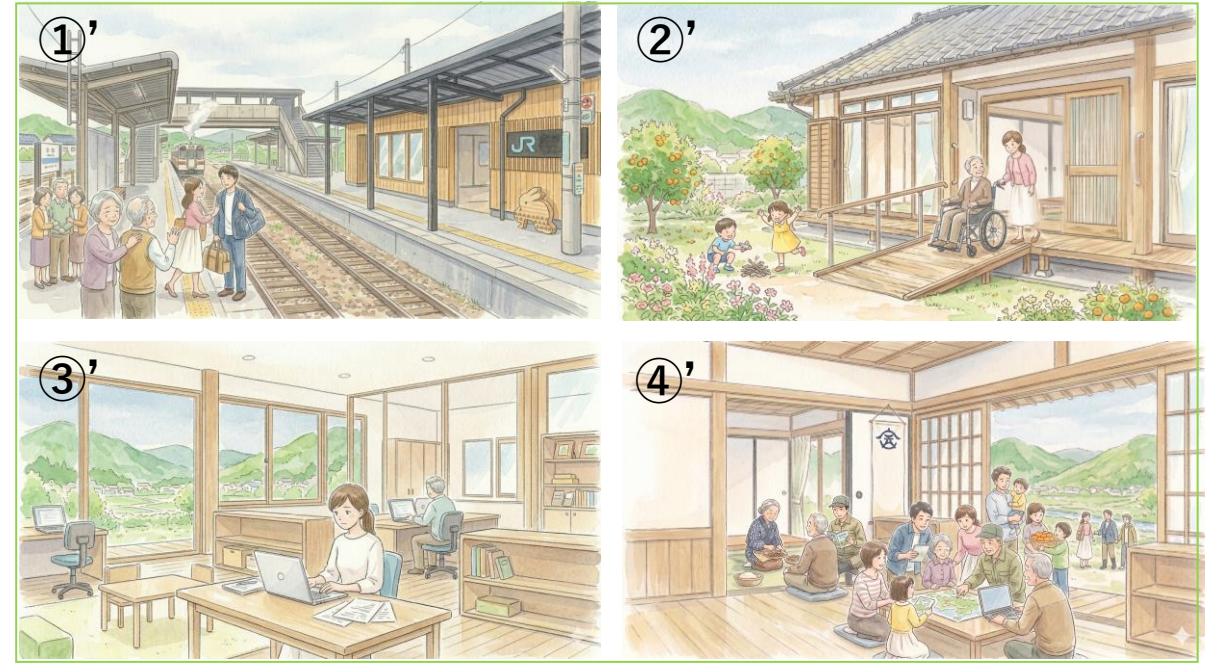
婚姻件数や出生数は依然として厳しい状況にありますが、基本構想で掲げた「地域と企業が連携して支える体制」の構築は着実に進んでいます。一方で、一定の進展は見られるものの、今後も継続した取組が必要です。【見直し】親の不安に寄り添い、地域と企業で手を取り合って子育てする。

目指した姿



このまちでは、①子育てをしながら働きたいと西予市から巣立った青年たちが戻ってきている。また、子育てだけでなく、②介護のために戻ってきた子どもたちもいる。それぞれ③仕事との両立もできているようだ。一方で、若年層のみならず、市外、県外、国外で身に付けた知識や経験を持って、働き盛りの中高年層も戻ってきている。また、地域の課題解決のため、様々な形で地域に関わっていた人材も、関係を持ち続けている地域への移住を決意する。④そうした人たちを温かく迎える地域がある。そういう評判を聞きつけ、その他の地域からも転入があるようだ。

現在の姿



このまちでは、①'進学や就職に伴う若者の流出が依然として続いている。関係人口の創出によって新しい縁は生まれているものの、定住の決め手となる③'魅力的な雇用の創出は道半ばである。それでも、②'介護や子育てを機に故郷を見直すUターン層が現れ始めており、④'彼らを温かく迎える土壌を官民で耕し続けている。

～総評～

転出超過の状況は続いていますが、関係人口の拡大や柔軟な受け入れ体制の整備を進め、新たな人の流れの創出を模索しています。【発展・充実】帰郷を考える人を温かく迎え、新たな縁で地域を耕し続ける。

目指した姿



このまちでは、①女性、高齢者、障がい者、外国人など誰もが居場所と役割を持ち地域を支えている。誰もが②互いの人権を尊重し、個性と能力を発揮し、活躍できるまちづくりが推進されており、③市民組織、企業、団体、行政など多様な主体が連携、協働するとともに、それぞれの持つ力を発揮し、役割と責任を担う④住民主体のまちづくりが行われている。

現在の姿



このまちでは、**担い手不足が深刻化**する中で、誰もが居場所を持てる社会づくりを急いでいる。①'女性や高齢者、外国人が地域の支え手として活躍する場面は増えているが、それは②'「理想」だけでなく「必要」に迫られた側面も強い。支え合いのコミュニティ形成に向け、③'個性と多様性を尊重し、④'共に地域を守り抜こうとする模索が続いている。

～総評～

「誰もが居場所と役割を持つ」という目標に向けて、多様な主体が連携し、住民が主体となったまちづくりが各地区で少しずつ広がっています。**【発展・充実】** 違いを認め合い、誰もが役割を持って共に暮らしを守り抜く。

見直し

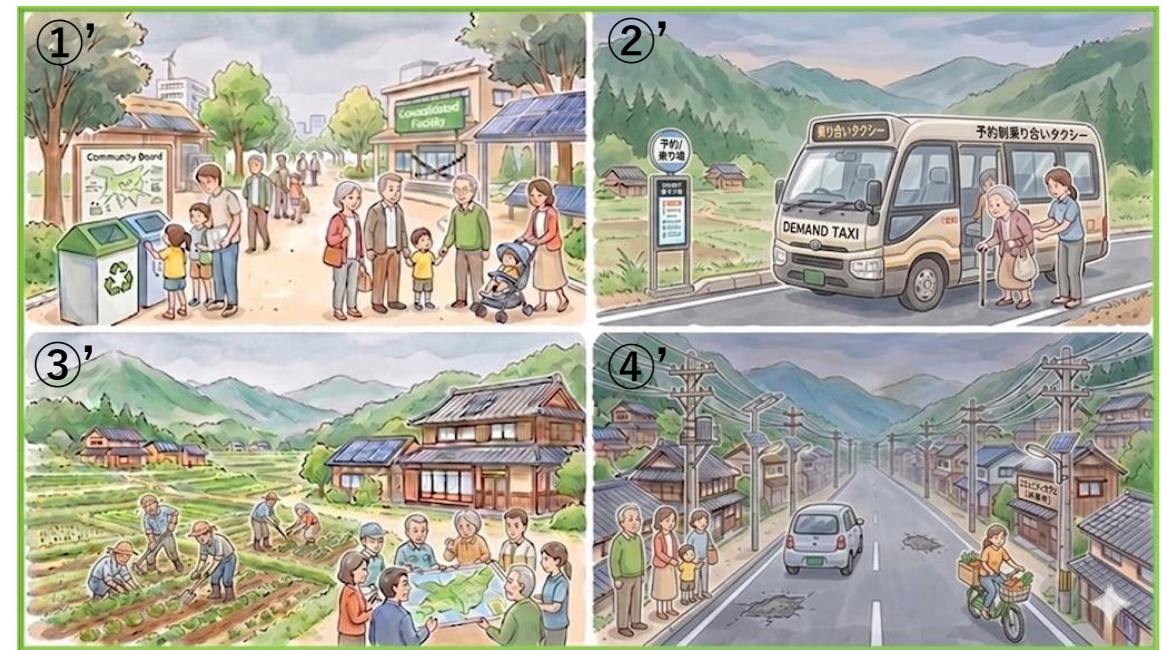
目指した姿



このまちでは、人が賑わうところに力を入れて、背伸びをせずに、①持続可能な開発目標 (SDGs) を意識したまちがデザインされ、整備が進んでいる。加えて、官民連携による② Society5.0の様々な技術を活用し、課題解決の糸口が見い出され、一人ひとりが快適に暮らせる未来社会の実現が近づいているようだ。

また、四国西予ジオパークに認定された時には思いもよらなかったけれど、④統一感のあるまちにほぼ変わりつつある。田舎だからこそ、③環境に配慮し、一目置かれたまちデザインを地域のみんなで創っている。

現在の姿



このまちでは、財政危機の回避に加え、人口減少社会を見据えたまちづくりのための「公共施設再編」が断行されている。構想にある「賑わい拠点への集中投資」は、今はまだ将来に負の遺産を残さないための①「痛みを伴う施設の統廃合」という形で進んでおり、市民は、持続可能なまちづくりのため、慣れ親しんだ利用環境の再構築という課題に向かっている。

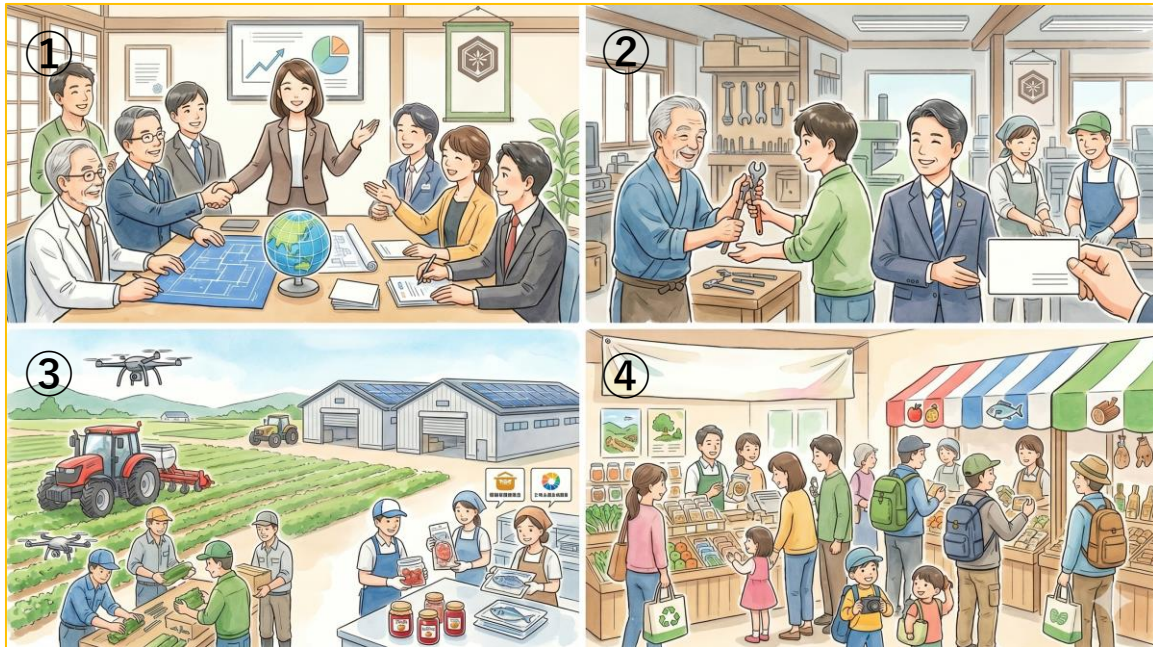
Society5.0による利便性の向上も模索されているが、現場ではまず、②'孤立化が進む周辺集落の「移動の足」をどう死守するかが最優先の課題だ。

ジオパークを核とした景観整備も、日々の生活機能を維持する切実な問題の陰で、④'勢いを保つことに苦慮している。しかし、この瀬戸際の闘いの中で、限られた資源を賢く使い、今の暮らしを守り抜こうとする③'地域住民の「生きる覚悟」が、新たなまちの土台を築きつつある。

～総評～

公共施設の理想の配置以上に、**基金の枯渇**に加え、人口減少社会に向け「再編・削減」という**厳しい局面**にあります。また、先端技術への期待に対し、重要課題である「地域交通の維持」や「買い物弱者」への対応が急務となっています。**【見直し】身の丈に合わせた施設へ縮小し、日々の移動と暮らしの足を残す。**

目指した姿



このまちでは、やりたいことを実現するために、①産官学金労言士で連携・協力して、起業・創業を支援してくれる。女性の活躍促進にも熱心な事業所が増え、その能力を積極的に活かす風土ができつつある。②後継者のいない企業も多かったが、民間の主體的な取組みと連携し、地域の人などが引き継いだりして、今も健在な企業がある。雇用はまだ十分でないが、不満は少なくなってきた。

③第一次産業も、法人化が進み、経営規模も大きくなっている。それによって、後継者問題も少しは解消してきている。他の企業とも連携して、農林水産品に付加価値を付けた取組みが機能し始め、安心して働き、稼ぐことができる地域ができつつある。

四国西予ジオパークもなんとかイメージが定着しつつあり、産業振興に寄与し始めている。④多くの人々が訪れるようになり、西予市の農林水産物、加工品等を多くの人が手に取るようになった。

現在の姿



このまちでは、①'地元密着型企業の育成と「小さく産んで大きく育てる」政策が続けられているが、②'若者が望む専門的な職種の不足は依然として課題である。第一次産業では法人化が進み、経営感覚を持った担い手も現れ始めているが、③'後継者不足や物価高騰の影響は深刻で、伝統的な産業の維持そのものが容易ではない。

四国西予ジオパークを軸としたブランド化も試行錯誤が続いているが、産官学金が連携した支援体制により、地域の資源に新しい価値を見出そうとする動きも芽生えつつある。④'既存のサプライチェーンを再構築し、農林水産品に付加価値を付ける取組みを通じて、安心して働き、稼げる地域を取り戻そうとする粘り強い挑戦が続いている。

～総評～

働く場となる企業数は依然として不足しており、第一次産業では、法人化やスマート農業の導入が進んでいるものの、高齢化による担い手不足や生産性の低下に加え、価格の低迷も重なり、厳しい経営状況が長期化しています。【発展・充実】地域の資源を磨き直し、安心して稼げる小さな仕事を育てる。

目指した姿



このまちでは、①市内にある病院が一層統合し、サービスが充実してきている。病院、診療所、開業医等も連携して、市内のどこでも受診しても、適切な診療がなされている。医師不足の中、周辺自治体と連携し、診療科目の充実にも頑張っている。医療機関等が連携して、へき地医療も維持している。②消防も救急対応を少ない人数でなんとかこなしているし、今も昔も変わらず夜間・救急対応が行われている。重症者のヘリ搬送も回数は少ないが経験している。③子どもから高齢者まで、地域内の困りごとについては地域の人に相談し、助け合いの下、対応できる地域が増えている。障がい者等についての理解が進み、働く機会だけでなく、④地域活動にも参画している。

現在の姿

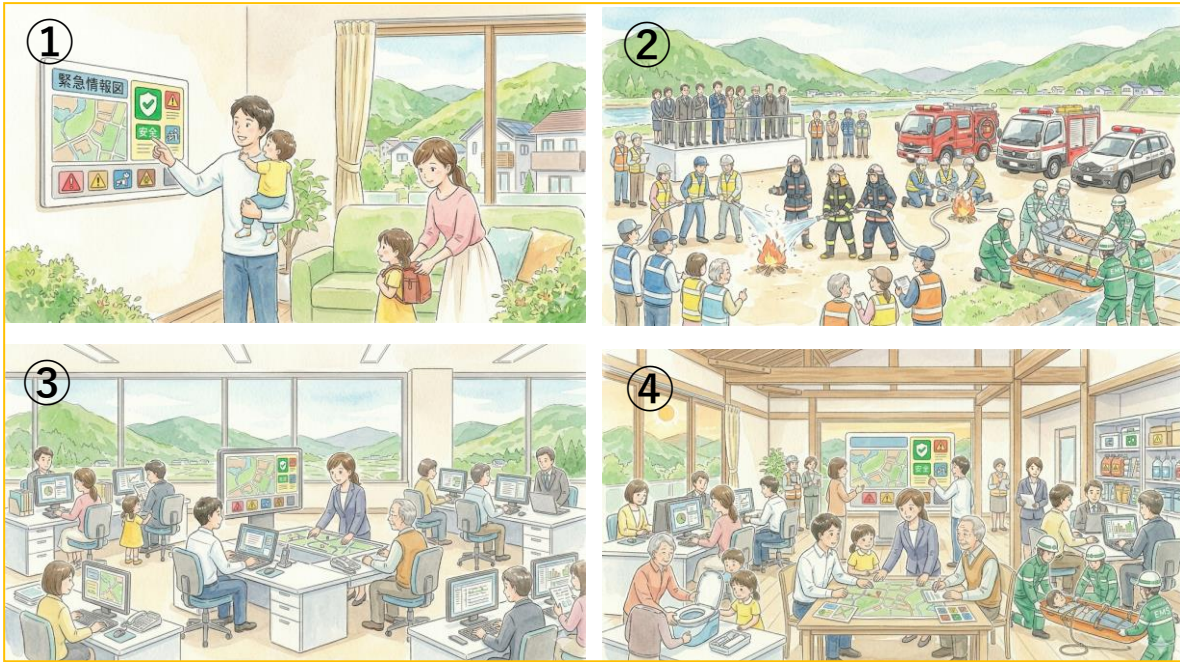


このまちでは、西予市民病院、野村診療所、つくし苑が指定管理者による運営を行い、①'医療体制の充実に取り組んでいる。また、これまで長年の課題となっていた二次救急については、西予市民病院に集約するなど、地域医療体制の強化を進めてきた。しかし現在、医師や看護師をはじめとする医療従事者の高齢化や人員不足が進んでおり、医療現場は大変厳しい状況にある。このような状況の中でも、将来にわたり必要な医療を安定して提供していくため、②'救急医療体制の見直しなど、持続可能な医療提供体制の確保に取り組んでいく必要がある。また、生活習慣病予防や重症化対策に取り組むことにより、健康に対する意識を高めてきた。③'地域に根差した助け合いの仕組みづくりも始まっている。医療費や介護給付費の増大という不安を抱えながらも、障がい者や高齢者が地域活動に参画し、誰もが住み慣れた場所で支え合える④'「インフォーマルサービス」の芽が、着実に育ちつつある。

～総評～

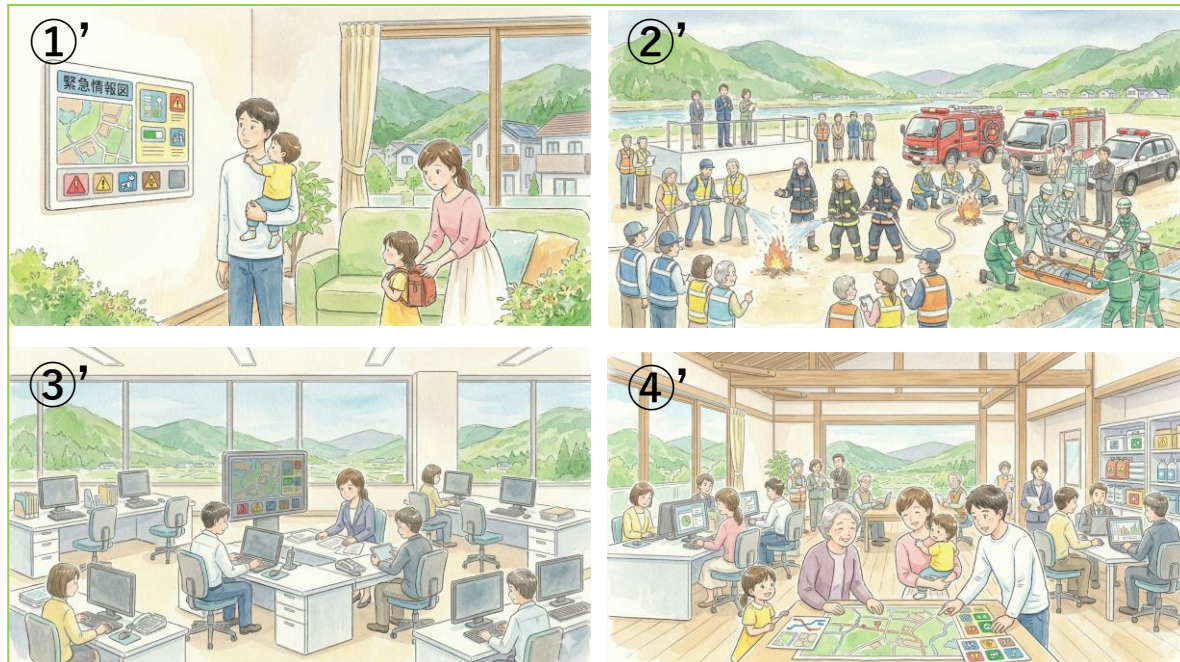
産科の不在や、医師の高齢化・後継者不足の状況が続いており、医療サービスの維持が難しい局面にあります。生活習慣病の予防や重症化を防ぐ取組を引き続き進めるとともに、地域で支え合う仕組みの構築が急がれています。【見直し】身近な助け合いを広げ、限られた医療を皆で大切に守る。

目指した姿



このまちでは、①災害時にはすぐさま家庭へ確実に情報が伝達できるようになっている。消防団、自主防災組織、消防署を中心に産官民が連携した②自然災害、火災、救急等の訓練も行われている。③万が一のときにも、継続すべき業務、迅速に対応すべき業務を行うことができる体制が整備され、④普段から危機意識が高まってきたので安心だ。

現在の姿

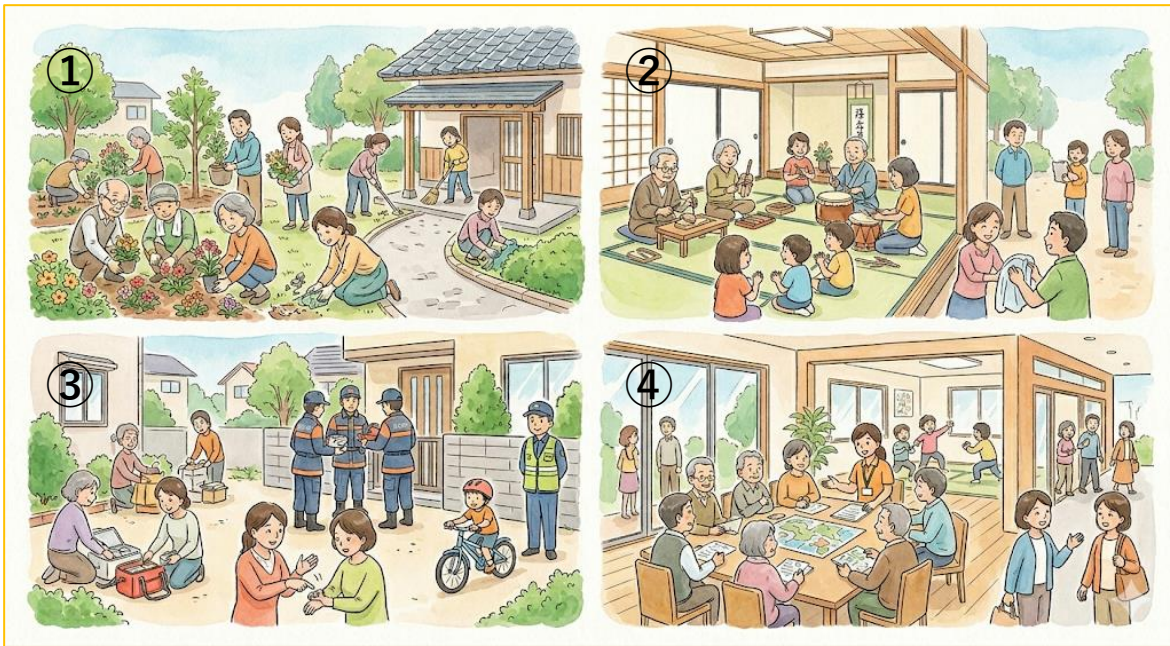


このまちでは、①'情報伝達システムの高度化が進み、危機意識は共有されつつある。しかし、②'消防団等の高齢化による機能低下は避けられず、**広域災害への備えは常に綱渡りの状態**にある。こうした状況に対応するため、人口減少を見据えた消防団員数の適正化を進めるとともに、機能性や経済性を考慮した詰所の統合、機動性に優れたコンパクトな車両への更新など、体制の再構築を図っている。③'万が一の際に**迅速に対応できる体制を整えるため、産官民が連携した訓練を繰り返す**、④'地域全体で「自らを守る力」を必死に底上げしているのが現状だ。

～総評～

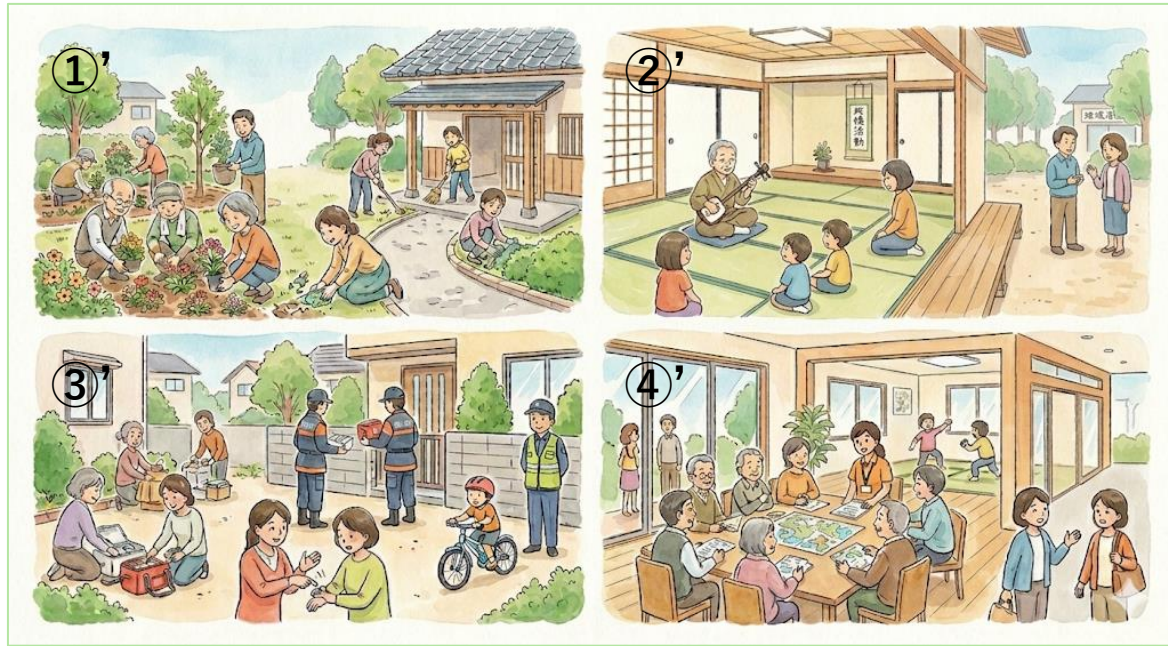
消防体制の課題を認識しつつ、常備消防との連携や市民参加型の訓練を重ねることで、実効性のある防災体制の再構築を進めています。【見直し】消防団の負担を減らし、自ら命を守る現実的な備えを形にする。

目指した姿



このまちでは、①地域コミュニティ活動が地域を支えている。②③自治活動、文化継承、世代交流、消防、防災、健康、子育て、教育、見守り、防犯、交通安全、あらゆることを、地域ぐるみで、老若男女分け隔てなく、自発的にやりがいをもって取り組まれ、人と人のつながりが更に強まっている。④地域づくり活動センターの地域コミュニティへのかかわり方も変わっている。
 人が少なくなってまとまったコミュニティもあるし、人が多くなって分かれたコミュニティもある。④自分たちの問題は自分たちで可能な限り解決する、そういった姿勢が市内全域に醸成されている。

現在の姿

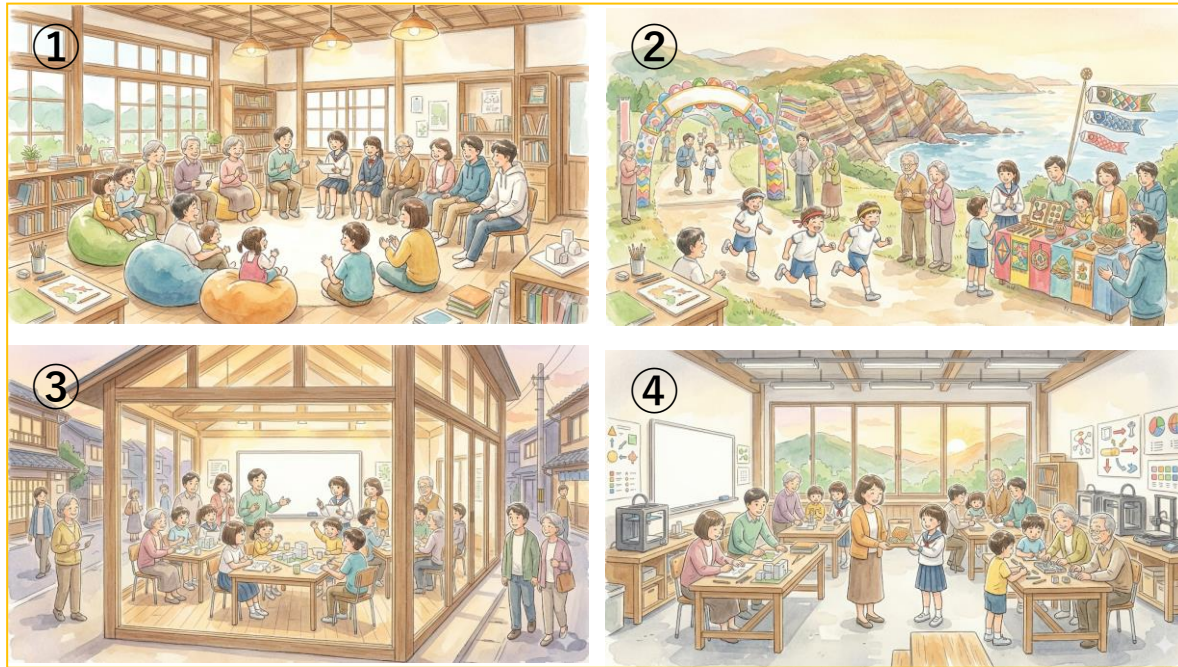


このまちでは、「自分たちの地域は自分たちの手で」という自立の精神が広がりつつある。行政に依存しすぎず、①'地域づくり活動センターが、住民の自発的な活動を力強く後押ししている。
 ③'活動の担い手不足は深刻だが、②'若い世代が参加しやすい環境づくりが工夫され、④'多世代が交流する場が地域のあちこちで生まれている。

～総評～

「行政依存からの脱却」を目標に掲げ、地域づくり活動センターを軸として、住民が主体となった課題解決の取組を市内全域で進めています。
【発展・充実】行政頼みを抜け出し、多世代が集い自分たちで地域を動かす。

目指した姿

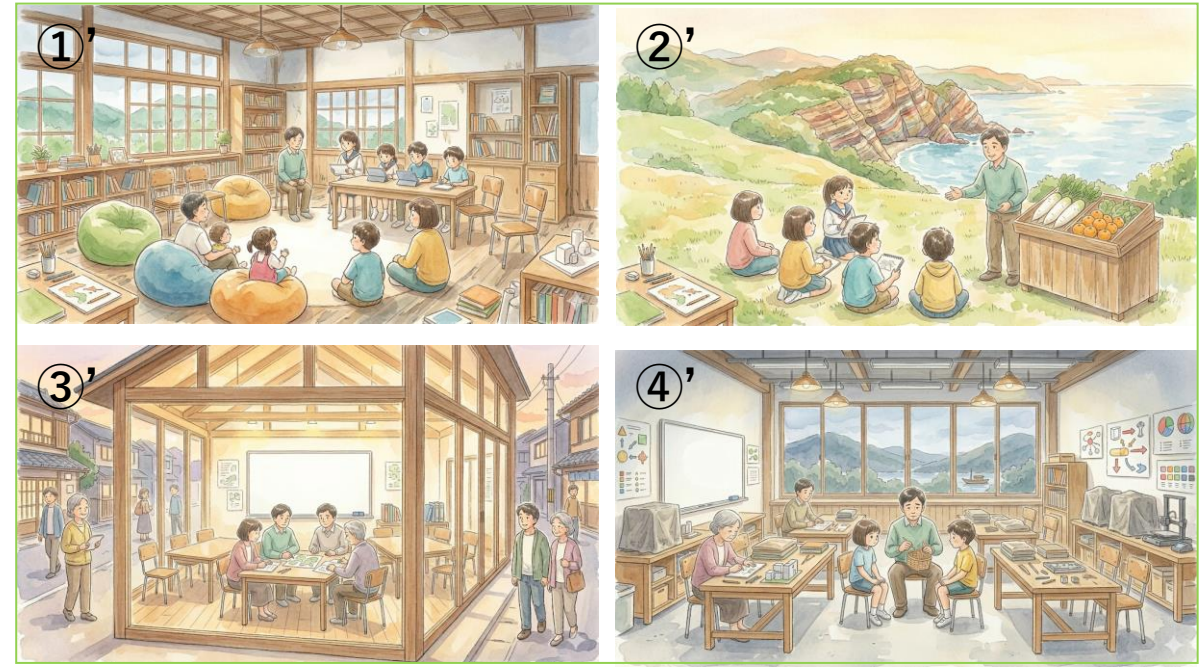


このまちでは、①空き教室などを活用した公営塾、愛媛大学地域協働センター南予など、様々な場所で、年齢、性別など関係なく様々な教育が行われている。やる気さえあれば、誰もが先生になることができる。子どもたちは、市内外の多様な考え、知識に触れることで、創造性を失わずに勉学に励んでいる。この中から将来大物が誕生しそうだ。

②都会にはない四国西予ジオパークを学校で学ぶことができ、地元のことを知ってますます故郷が好きになっている。四国西予ジオパークをテーマにスポーツ、文化等のイベントが行われることも定着してきた。

また、やる気のある人たちは、③世代に関係なく集まって勉強会をやっている。④そこから生まれる様々なアイデアを、産業づくりや地域づくりで実現しようとしている。田舎ならではのイノベーションが起きそうだ。

現在の姿

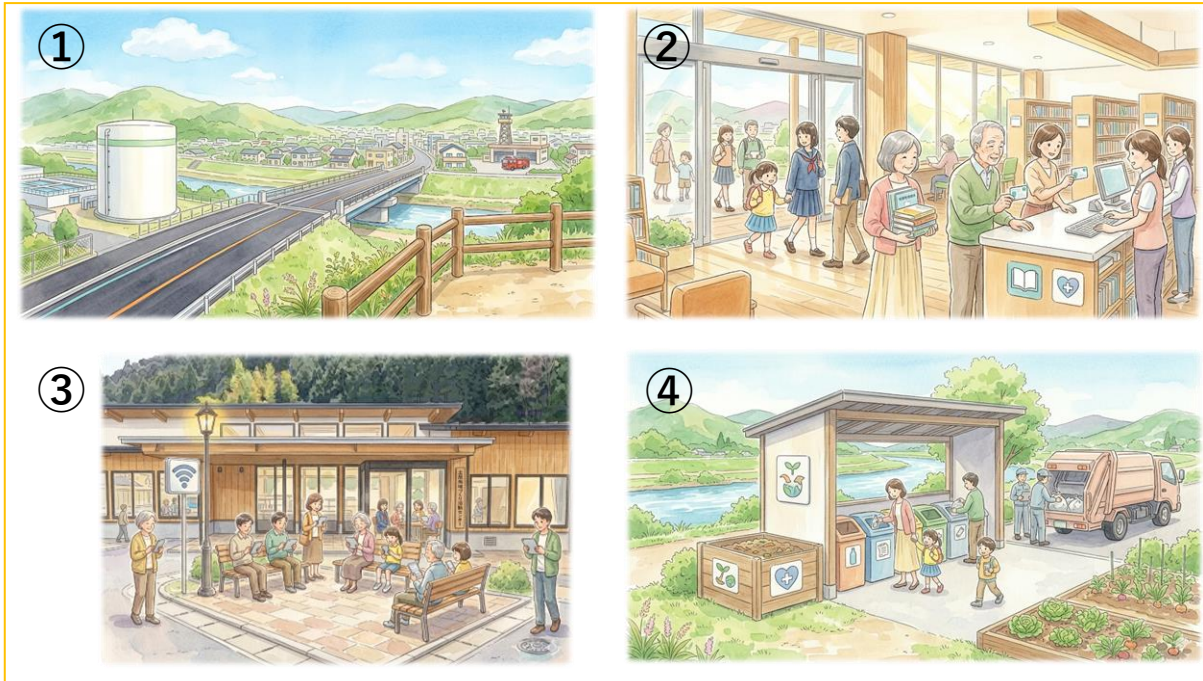


このまちでは、①'学校統合という環境変化の中でも、質の高い教育を維持するための挑戦が続いている。現在、子どもたちの減少を受け、中学生にとってより良い教育環境を実現することを目指し、学校再編に向けた検討委員会での議論が進められている。都市部との教育格差への懸念は残るが、②'ジオパークを題材にした独自の食育や学習を通じ、深い郷土愛を持つ人財を育てている。③'やる気ある大人が「先生」となり、④'子どもたちと共にイノベーションを夢見る学びの場が、地域のあちこちで守られている。

～総評～

児童生徒数の減少という現実を踏まえつつ、地域資源を活かした西予市ならではの教育に取り組み、将来のUターンにつながるふるさとへの思いを育てています。【発展・充実】地域の大人と自然を教材に、ふるさとを愛する子どもを育む。

目指した姿

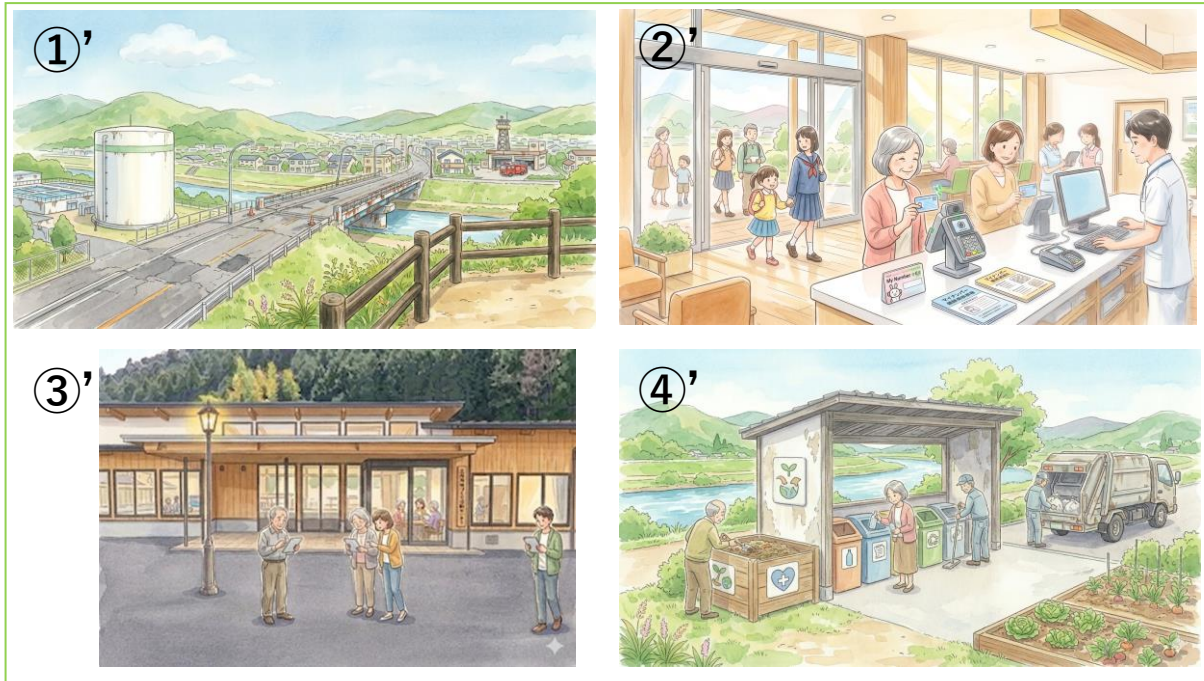


このまちでは、①老朽化した道路、橋梁、上下水道施設、消防施設といった公共インフラの長寿命化が図られ、万が一のときにも対応できるよう、整備されてきている。人口規模に見合った計画的なインフラ整備を常に心掛けているようだ。

また、②マイナンバーカードを市民みんなが持っている。本市の特徴の一つ市民カードだ。カードを持っていけば、図書館で簡単に本も借りることができ、共通診察券としても利用できる。市役所での手続きも便利になった。何より市民であることの証となっている。

情報通信では、③公衆のインターネット接続ポイントが増え、市内のどこでもネット環境が整い、便利になってきている。不慣れな方のためにも、地域で学習会をやっているようだ。西予CATVでは、昔より多様なサービスが住民に提供され、加入率が増えているようだ。環境衛生に関しては、④自然環境に配慮した対応が行われ、ごみ出しも、以前と変わらないサービスが行われているようだ。

現在の姿



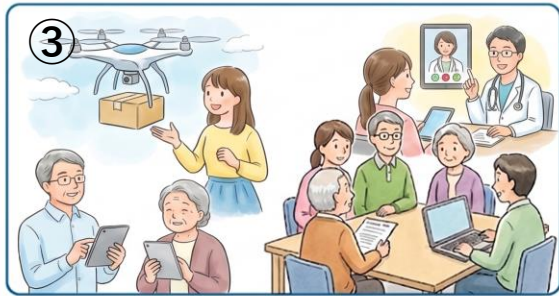
このまちでは、①'老朽化した道路や橋梁、上下水道施設といった公共インフラの長寿命化対策が急ピッチで進められている。しかし、厳しい財政状況と人口減少を受け、全てのインフラを以前と同じ規模で維持することは難しく、活用状況に応じた「適正規模への縮小」という現実的な選択を迫られている。

一方で、②マイナンバーカードは市民の8割以上の方が保有しており、健康保険証や運転免許証としての活用など、デジタルによる付加価値の提供が始まっている。③不慣れな世代への学習支援を続けながら、限られた資源を集中的に投資し、安全で清潔な暮らしの基盤を次世代へ繋ぐための知恵を絞っている。

環境衛生に関しても、④施設の老朽化が進む中で、自然環境に配慮しつつ、ごみ出しなどの基礎的サービスを低下させない維持管理に注力している。

～総評～
 1960年代に建設されたインフラが一斉に更新時期を迎える中、財政負担を踏まえ、「人口規模に見合った適正な施設規模への見直し」を計画的に進める段階にあります。老朽化が進む施設などの更新という課題を抱えながらも、市民生活に直結する環境衛生サービスを安定的に維持していくことが求められています。【見直し】人口に合わせた規模に施設を縮小し、安全な生活基盤を残す。

目指した姿



このまちでは、引き続き、①安定的な財政運営が図られ、水道、医療、ごみ処理といった基礎的な行政サービスは、問題なく行われている。市の職員も企画立案業務に慣れつつあり、データなどを根拠に、②職員自らで計画を策定することができるようになってきているようだ。

また、Society5.0の技術により市の職員の働き方や業務の仕方も変わり、③必要なもの・サービスを、必要な人に、必要な時に、必要なだけ提供し、社会のさまざまなニーズにきめ細かくに対応でき、あらゆる人が質の高いサービスを受けられ、年齢、性別、地域、言語といったさまざまな違いを乗り越え、生き活きと快適に暮らすことができているようだ。更に、地域のみならず、職員が地域活動に以前と変わらず参加しており、役所が身近に感じられ、不満を感じることは少なくなった。現状に満足しない職員も増えたのか自ら改善提案を行う職員も多くなったようだ。それに、最近お役所仕事なんていう人は少なくなったようだ。

これらの様々なツールを生かし、潤いのある豊かな生活を安心して営むことができる地域社会を目指すため、住民、事業者、農家、行政、NPO、自治会、商工会、農協、学校などの個別の立場や組織を越えて、産業・環境・教育・医療・福祉・防災・まちづくりなどの領域を超えて、④SDGs(持続可能な開発目標)にもとづく地方創生の活動を進めているようだ。

現在の姿



このまちでは、①'遠くない将来に懸念されていた基金の枯渇を回避するとともに、人口減少社会に備え、安定的で健全な運営の維持に全力を挙げている。

②'業務改革や効率化を推進し、持続可能な地域づくりを目指してはいるが、**厳しい財政状況下でのサービス向上と職員の削減という相反する課題に直面しているのが実情だ。**

Society5.0の技術を活用した行政改革はようやく取り組みが始まったばかりだが、データに基づき職員自らが計画を策定しようとする姿勢が芽生え始めている。③'市民に高負担・低サービスを強いることのないよう、④'SDGsの視点を持って組織の枠組みを超えた連携を深め、限られた財源の中で潤いのある豊かな生活を次世代へ繋ぐための瀬戸際の努力が続けられている。

～総評～

現状のままでは、市の貯えである**基金が底をつき、将来的に赤字に転落するおそれがある**という強い危機感から、財政の安定化と人口減少社会への対応を最優先の課題としています。また、**職員数の削減や厳しい財政状況の中にあっても、水道、医療、ごみ処理といった基礎的な行政サービスの質を維持し、市民の信頼に応えるため、業務の見直しや改革が求められています。**【見直し】赤字を直視して無駄を省き、次世代に負担を残さず経営を貫く。